

第二場 森の他の方面。

騒がしい喇叭、太鼓。突出。フォールスタッフと士爵ジョン・コールギルどが行逢ふ。

フォル 足下の名は何といふんだ、足下はどういふ身分だ、何處の人だね？

コール わたしは勳爵士です。名は峽のコールギルです。

フォル ふん、ぢや、名はコールギルで、身分は勳爵士で、住所は峽だね。名はコールギルでも可いが、身分が謀叛人で、住所はうんと奥深い土の牢となるんだ。だから、やッぱり谷間のコールギルでさしつかへはないや。

コール 足下は士爵ジョン・フォールスタッフぢやないかね？

フォル おれがだれにしる、ま、あの男に劣らん立派な男だ。さ、降参するかい？

或は一骨折らせる氣かい？ おれが汗を垂らすやうだと、その一滴々々はお前の親友達の涙になるぜ、お前の死ぬのを泣くんだぜ。だから、いつそ怖がつて慄えて、おれにお慈悲を願つたはうが可いぜ。

コール 足下は士爵ジョン・フォールスタッフだらう、だから降参なさい。

フォル おれは此肚中に無数の舌を有つてるんだ、で其只の一枚だつて、おれの名を白状してゐやがらねえのはねえ。おれがこれで、中位ゐの肚を有つてさへゐりや、歐羅巴中で、無論、一等敏活な男なんだらうのになア。おれの此肚めが、此肚めが駄目にしツちまやアがる。...



あ、あそこへおれんとこの大將軍が来た。

ランカスターのジョン王子、ウエストモリアランド、アラント及び其他出る。
もう熱は過ぎた。もう追撃するには及ばん。…軍隊を呼入れなさい、ウエストモリアランド卿…

ウエストモリアランド入る。

フォル

おい、フォルスタッフ、其方は何處へ往つてゐたのだ今まで？ 何もかも済んでしまつた時分にやつて來をる。此怠慢癖は、早晚、或紋罪臺上できつと報罰されることになるだらうぞ、もつとも臺が毀れるかも知れんが。御前、さういふ御處分にならなかつたら、遺憾千萬に存じます。勇敢の御褒美は是非ともお叱りであり、お小言であるとはかり心得てをりますから。御前は手前を雀や箭や弾丸のやうに思つておいで、すか？ 此大きな圖體を動かすのが箭や弾丸のやうに出來ますかい？ こゝへ來るのに

は此上もない出來るだけの速度でやつて來ましたのです。百八十頭以上の驛馬を乗殺しましたです。さうして、こゝで草臥れてゐながら、純粹にして清淨なる所の勇氣によつて、最も猛烈な、驍勇無双の敵軍の勇士、峽の勳爵士ジョン・コールギルを擒にしました。が、そりや、いふに足らんです。奴は手前を見るや否や降服したからです。ですから、手前は羅馬のあの鈎ツ鼻男（シーザー）と共に、斯う言ひ得るです、おれは來た、見た、さうして勝つたと。

ジョン

そりや其方の力によつたのではなくつて、先方が武士道を心得てゐたからだらう。

フォル

そりや知りません。奴はこゝにゐますからお引渡します。で殿下に請願しますが、どうか今日の勳功帳に手前のも御記入を願ひます。で無けりや、手前は之を小唄に作らせまして、其頂邊に手前の足をコールギルが

キツスしてゐる圖を畫かせます。止むを得ずしてさういふことになりますと、殿下は金貨たる手前に對して鍍金した二片銅貨と見え、又手前は恰も天上の、あの燃え残りどもの、あの留針の頭のやうな星共の前の満月といふ風に、光榮の天空の中に輝き渡つて、あなたを壓倒してしまひませうぜ。若しかこれが間違つたら、以後は貴人の言ふことも當にならんと申し召せ。といふわけですから、手前を正當にお扱ひ下されて、もつと位置をお上げ下さいますやう。

ジヨン

汝は重いから、容易に上げられんよ。

フォル

ちや、名だけでも光らして下さい。

ジヨン

とても光りさうにない大きな塊りだ。

フォル

御前、どうかなすつて下さい、何かその手前の利益になるやうな風に、どういふ風でもようござすから。

ジヨン

(コールギルに) 汝はコールギルか？

コール

さやうです。

ジヨン

コールギルか！ 汝は逆徒中の有名な男だ。

フォル

それを良民中の有名な男が捉へましたんで。

コール

仰せの通りです、併し手前を同志たらしめた者も同様でございます。彼等が手前の意見に従つたなら、御勝利がもつとすつとお骨が折れましたでせう。

フォル

そいつらは如何いふ鹽梅式に身を賣つたか知らんが、お前は、親切者らしく、只もんめで降参してくれたねえ。まことに有りがたう。

ウエストモアランド又出る。

ジヨン

もう進撃を止めましたか？

ウエス

退却中です。殺戮は中止しました。

ジョン

コールギルは、其同志らと共に、ヨオクへ送附せい、すぐさま處刑するやうに。……ブランド、其方しかと警護して、あつちへ伴れて參れ。……

ブランド其他はコールギルを引立て、入る。

さ、諸卿急いで朝廷へ參らう。父王には御重體だと聞いたが、此吉報を吾々よりも先に、陛下のお手許へ達けたい。……(ウエストモアランドに) あんた、どうか此知らせを持つてつて父を慰めて下さい、わたしどもは大急ぎで直あとから行きますから。

フォル

御前、どうか手前にグロースターシャーを通つて行くことをお許し下さい。それから、朝廷へお出でになりましたら、御前、どうか手前の功績のことを何分よろしく。

ジョン

さよなら、フォールスタッフ。わしの身分柄の許す限り、實際よりもずつと功績があつたやうに言つてやらう。

皆々入る、フォールスタッフだけ残る。

フォル

(王子の後影を見送つて) あんたにもツと洒落ッけがありさへすりやなア! 今持つてござる公領以上になア。全く、あの青い、沈着きくさつた小僧どん、おれを好いちやゐないや。どうしたつて笑はせッこの出来ねえッて小僧だ。不思議はないや、酒の味を知らねえいんだから。小僧の癖に、眞面目くさつたあゝいふ奴らてものは、いざといふ時に何にもならん。といふのは、水ッぽいものばかり飲んでるから血が冷くなる、魚ばかり食つてるから男のヒステリーになる。で結婚をすりや、女子ばかり生む。奴ら大抵馬鹿か臆病者だ。こちとらだつて、酒で燃焼しなけりや同じだらうて。好いシエリー酒は二重の效能を持つてるからなア。先づ腦へ登る、そこに幡つてるあらゆる痴鈍な、下等な毒氣を乾燥さしちまつて、それをその、想像力の活潑な、當意即妙の働きをするものにして、機敏な、猛烈な、いろん

な面白い形象を生み出し得るものにする。さうしてそれが聲に移されて言葉となつて現れると、素敵な名洒落となる。上等シエリーの第二の特質は血を温めるとだ。前にヤ血が冷えて沈み切つてゐるので、肝の臓が白ツちやけてゐたのが……それは臆病意氣地なしの標章だが……シエリーを飲むと温まつて来て、五臓六腑から四肢の隅々まで血が走り出す。顔が光り出す、それが人體といふ此小王国の各部分へ「起てッ！」といふ警報を與へる合圖の篝火なんだ。すると、平凡な小活力共や内地の小元氣なんぞが皆な御大將の心臓のところへ集まつて来る。大將、斯う元氣共に取巻かれると、氣が大きくなつて、どんな勇敢なことでもやらかす。此勇氣はシエリーから来る。だから武術に長けてゐたつて、それを働かせる酒がなけりや駄目の皮だ。學問だつても、惡魔が守つてる金山同然だ、酒がそれを押開いて活用させなけりやア。王子のヘンリーが勇敢なのも全く酒

からだ。生れ附は親父の遺傳で、冷淡で引込思案なんだが、瘦地の赤土原に肥料をくれて、うんと手を入れたやうな鹽梅式に、しこたま良い酒を飲ませることに骨を折つたんで、今ぢやア熱烈な勇敢な男になつてゐる。おれに伴が千人あつたつて、眞先に言ひ聞かせる教訓は、水ッばい奴なんかは決して飲むな、強い酒に身を打込め、と斯ういふんだ……

バードルフ出る。

どうした、バードルフ？

軍隊は皆な解散しッちまひましたよ。

バード
フオル

よし。おれはグロースターシャーを通つて行く。あそこの郷士の口バート・シャロウどんを訪ねて見る。人指ゆびと母指とで以て一通り捏ねといたから、封印がすぐと出来るだらう。さ、行かう。

入る。

第三場 ウェストミンスター ジェルサレム室。

王ヘンリー四世、病中の體にて出る。第三の王子クラレンスのトマス、(其實は第二の王子)第四の王子グロースターのハンフリー及び伯ウオーリック其他従ふ。第三の王子は王の背後にゐる。

王

さて、諸卿よ、若し神が、目下吾々の戸口で鮮血を流しつゝある此内亂をば、首尾よく終局せしめ下されるならば、予は若い者共を、専心一意、神聖な遠征に従事せしめ、神のお爲の外には、決して劍を抜かせまいと思ふ。既に海軍の艦装も整ひ、陸兵の召集も済み、予が不在中の代理役にも既に權力の委任を終へて、萬事期望通りに進んでをるのだが、只まだ聊か予の健康が復し足らんので、目前の謀叛人共が全く服従してしまふまではと躊躇

してをるのである。

ウオー

右兩件とても、程なく御満足遊ばされることと相成るでございませう。

王

グロースターのハンフリーよ、兄の世子は何處にをる?

グロー

ウインゾアへ獵に行かれたらうと存じます。

王

だれが一しよに行つた?

グロー

存じません。

王

弟のクラレンスのトマスが一しよぢやアないか?

グロー

いゝえ、さうぢやございませぬ。トマスどのは、こゝにお前にゐます。

クラレ

(前へ進んで)父上さま、何か御用でございますか?

王

何でもない、只お前が無事でゐてくれ、ばよい。どうして兄の世子と一

しよにゐないのだ? 彼れはお前を可愛がつてをるのに、トマス、お前は

彼れを大事にしない。お前を他のどの弟よりも可愛がつてをるのに。

決して等閑に思はんが好い。おれが亡い後では、國王と彼れの他の同胞との間に立つて、お前がいろく大切な役目を勤めることになるだらう。だから、彼れを大事にしなくちや不可ん。愛情を鈍らせたり、冷淡な仕向けをして、折角の寵愛を無駄に失つてしまつては不可ん、彼れは大事にさへすれば、情け深い生れ附なのだから。慈悲には、溶けるやうに涙脆くつて、すぐにも手を擴げて、憫れな者を救ひ上げる。けれども、それに拘らず、憤激したりといふと、燧石のやうに火花を散らす、冬のやうに氣まぐれで、宛然明け方に急に水蒸汽が凍るやうに變る。だから彼れの氣分は餘程よく注意してゐなけりや不可ん。不心得を諫するのなら、彼れが陽氣に浮かれ立つてをるやうな時に鄭重に諫争するが可い。が、氣むづかしさうだつたら、鯨が陸に上つた時同様、思ふさま荒れて自分で疲勞れツちまふまで、勝手にやらせておくが可い。トマス、よく記えときなさい、さ

うすればお前がお前の親友らの庇ともなり、又同胞一同の黄金の籠ともなつて、假令どんなに水を注さうとする者があらうとも……きつと水を注す者が出来るであらうが……骨肉一致の器には、それを入らせるやうな隙間は生じない、激毒のやうに又は爆發藥のやうに働く藥水を注込まうとして

クラレ

以後はきつと注意いたしましたして、兄上を大切にします。

王

トマス、なぜウィンゾアへ一しよに往つてゐないのだらう？

クラレ

あそこにお在ではありません。ロンドンで御宴會中なのです。

王

だれが一しよだ？ 知つてますか？

クラレ

ポインズや其他いつものお附人と一しよです。

王

地味が良いほど雜草が繁茂する。おれの若い時そつくりの彼れにも雜草が一面だ。だから死んだ後までも心配になる。血の涙が流れる、おれが

祖先と共に地中に眠る日となつたら、お前たちは如何な素りがはしい腐り果てた世を見るであらうか、と、種々と、想像の目で歴々と詠めると。なぜならば、あの我儘な放埒に羈絆がなくなつて、熱い血の荒れ放題となつた時分には、放蕩の手蔓までが萬遍なく備はつた時分には、お、きつと彼れは、翼の生えたやうに、向つて進んで来る危険や滅亡の眞只中へ自分から飛込んで行くに相違ない！

ウオー

陛下、それはお案じ過してございます。王子が彼等をお友達となさるのは、譬へば、珍らしい言葉の御研究も同様で、甚しい下等な、いかゞはしい言葉も、一應はお學びにならざるを得ませんのです。が、一たび御承知にさへなれば、あゝ卑しい言葉だとお會得になれば、それでもう御用はないのでございませう。すなはち、下等な言葉をお覚えになつてお棄てになります如く、王子は其時機の熟するを俟つて、あのお附きの者共は御放逐

王

遊ばすでせう。で、彼等は、見本や尺度のやうに、殿下が人間の性行を考量なされる御用だけにお記憶に存在して、以前の御不利が後の御利益とも相成りませう。

いや、腐つた死骸へ巢を掛けた蜂は、中々それを離れないものだ。……

ウエストモアランド出る。

だれだ？ ウエストモアランドか！

ウエス

陛下の御健康を祝しますると同時に、更に一の吉報を申し上げまする！

第二(其實は第三)の王子ジョン殿下より謹んでお口上を申し上げます。

モウブレイ、監督スクロップ、ヘスチングス及び其他一同悉く伏罪仕りましてございませう。もはや國內いづこにも叛徒の白刃は見えず、到る處に平和の月桂樹が茂りをります。如何にしてさやうの運びと相成つたかは、一々くはしく之に認めてございませうから、御閑暇に御閑覽遊ばしますやう。

王

おゝ、ウエストモリアランド、お前は冬の後へ出て来て、日の出を囁り告げる夏の鳥だ。……

ハーコート出る。

ハーコ

あ、また何か知らせた。

天よ、常に陛下を仇敵より守らせたまへ！ 而うして、彼等が反抗を試みたる場合には、只今御報告申し上げる輩の如くに、速かに滅亡せしめたまへ！……英國人並びに蘇國人の一大軍をひきゐをりました伯ノオサンパランドと卿バードルフとがヨオクシャーの州長の爲に打敗られました。……其戦争の模様一切は、此書類にくはしく認めてございます。

王

(太息をして) 斯ういふ目出たい知らせを聞きながら、なぜ予は斯う不快であるか？ 好運の神が決して両手で賜を持つて来てはくれんのか？ 美しい言葉をも穢らしい字で書くのか？ 食慾をば起させながら、旨い物を

ば與へなかつたり……それは健康な貧乏人の場合だ……珍味を供しながら、食慾を取去つまふ……物は餘りあつても食ふことの出来ん富者の場合がそれだ。わしは此吉報を聞いて歡ばしいのだが、何だか目が見えなくなつて、頭がぐらくして……おゝ、だれか来てくれ、大變心持がわるい。

病ひが急に重つたらしく、王は頰りに悶へ苦しむ。王子ら驚きて介抱する。

クラレ

お氣をたしかなさいますせ！

クラレ

おゝ陛下！ お父さま！

ウエス

陛下、しつかり遊ばしませ。もしく。

ウオー

まア、王子がた。この發作は、御存じの通り、陛下にはよくお有りのことです。お離れ遊ばせ、お樂におさせ申した方がよろしい。ちきに、お回復でございませう。

クラレ

いゝえい、迎ももう長くは此苦しみにお堪へなさることは出来まい。

お氣苦勞が絶えないのだから、言はゞ、其壓迫で、壁が突崩されて、自然と生命が逸し去らうとしてゐるのです。

グロー

わたしは人民共の言つてゐることが氣になる。彼等は、近頃は、折々不自然

な、奇恠な子供が生れるといつて騒いでゐます。季候も非常に不順で、月

が二三ヶ月分も飛越してゐるか眠つてゐるかしてゐるやうです。

クラレ

河が三度も汎濫したが、それで曾ぞ退くといふことがなかつた。それか

ら、老人連は、とかく詰らんことばかり覚えてゐる老人連は、曾祖父さまエ

ドワードどの、お崩れなすつた少し前が恰ど斯うだつたと言つてゐる。

ウオー

もつとお静かにおつしやいませ、お氣が附きましたやうです。

グロー

此卒中でお亡くなりなさりさうだ。

王

(漸く我れに復りて) どうぞ起してくれ。どこかあつちの室へ伴れていつてく

れ。どうぞ徐と。

皆々入る。

第四場 他の一室。

王は臥床の上に横臥してゐる。クラレンス、グロースター、ウオーリックが及び其他侍してゐる。

王

どうか静かにして音をさせんやうにして下さい。此疲れた心へ、竊と耳

語くやうな音楽を、だれか、眠たくなるやうに、奏してくれ、ば格別だが。

ウオー

別室で音楽を奏するやうに。(と侍者に命ずる)。

王

枕元へ王冠を置いてくれ。

クラレ

(ウオーリックに、小聲で) 目が凹んでゐます。大變に變つて來ました。

音楽はじまる。

ウオー (奥へ向つて) もつと静かに、もつと静かに！

王世子ヘンリー何氣なく、つか／＼と出る。

王子 クラレンスを見なかつたかい？

クラレ 兄上、こゝにゐます。悲しくつてなりません。

王子 え、どうしたのだ？ 家の中は雨が降つてるの、外は晴天だのに？ 王が

如何かなすつたの？

グロー 非常にわるいんです。

王子 大勝利の知らせをまだお聞きにならなかつた？ あれをお知らせすると

好い。

グロー いゝえ、それをお聞きになつてから、大變にわるくなつたのです。

王子 喜んでわるくなつたのなら、薬を俵たないでお癒りになるだらう。

ウオー (皆を制して) もし、そんなに騒々しくなすつちやいけません。……(王世子に) 殿

下、どうか小さいお聲で。 どうやらお眠り遊ばしさうですから。

クラレ 別室へ退りませう。

ウオー 殿下も、吾々と一しよに、あちらへお出で遊ばしませんか？

王子 いゝや。 わたしはこゝでお看護してゐよう。……

皆々入る、王世子だけ残る。音楽止む。

(王冠にふと目を附けて) なぜ王冠を枕元に置くのか、厄介な同寝者だのに？

：おゝ、磨き立てた不安な物！ 金びかの苦勞の種！ 汝のお底で眠りの

門が、幾晩も／＼閉ぢられないでゐるのだ！ それを今抱いて眠るとは！

けれども、迎も、あの手製の寝帽子を被つて、夜通し大躰をかく手合のやう

に、あんな愉快な安眠の其半分だけでも眠られやしまい。 おゝ、國王權！

汝が其持主を苦しめるのは、恰どあの立派な甲冑を暑い日に着用した格だ、



身を安全にしなから、身を焼く苦しみを
 をする。……(王の寝顔をつくく見て)口の
 端に羽があるんだが、動かない。息を
 してるのなら、あんな軽い柔毛だから、
 是非動く筈だが。……(臥床の後ろへ廻つて
 行つて)お父さま！ 父上！ 實によく
 眠てゐなさるのだ。(と歎息して)斯ういふ
 眠りだ、古來幾たびとなく我英國王の
 頭上から此金の環を奪ひ去つたのは。
 (涙聲で)わたくしの貴下に獻ぐべきもの
 は、涙と肉身の深い悲痛の情です、それ
 だけをわたくしは眞實の子たる愛と誠

を傾けて、お、お父さま、十分に貴下に獻げます。あなたがわたくしに下
 さるべきものは(と徐かに王冠を取つて)此王冠です、これは嫡々の王世子であ
 る關係上、直ちにわたくしに傳はるわけです。そら、斯う(と頭上に載せて)
 載ける。これを神がお守り下さる。よしんば世界中の全腕力が巨大な
 一つの鐵腕に集まつてやつて來たからつて、此正統の榮譽をわたしから引
 奪るとア出來アしまい。これをわたくしは又、わたくしの子孫へ譲りま
 す、あなたから譲られたやうに。

王世子入る。

暫くして王は目を覺す。

王
ウォーリック！……グロースター！……クラレンス！

ウォーリック、グロースター、クラレンス其他又出る。

クラレ

王がお呼びなさるやうだ？

ウオー 陛下、御用でございませうか？ 御気分はいかゞでございませう？

王 なぜ予をたつた一人置いてつたのだ？

クラレ 兄上がお残りになつて、お傍でお看護なすつてでした。

王 ウエールスの公爵が！ え、どこにをる？ 逢ひたい。こゝにヤゐない。

ウオー 扉が明いてをります。あつちへお出でになつたのでございませう。

王 (枕元を見て) 王冠を何處へやつた？ 此枕元からだれが持つてつた？

ウオー わたくし共が引退りました際には、そこにございましたッけが。

王 王子が持つてつたね。彼れを捜して来てくれ。…そんなに氣短かなの

か、眠てるのを死んだのだと思ふほどに？…さがして来てください、ウオーリック卿。叱つて伴れて来てくれ。…

ウオーリック入る。

(歎息して) 此爲向けで病勢が募れば、程なく命は終るだらう。…やい、伴共

お前たちは何といふ料簡の者だ！ 父子骨肉も忽ち相背く、一たび黄金が

目的となると！…あゝ、それなのに、馬鹿な、取越苦勞の父親共は、眠りも

ようせんで、種々と考へて、心配で胸を痛め、勞働で骨を痛め、非道な手段

で掻集めた不淨な黄金を無暗に積重ねたりする。其子供らに文武さまざま

まの藝能を何くれとなく仕込んでおかうとして氣苦勞をする、恰ど蜜蜂が、

いろんな花から有效な甘味を吸取つて、股には蠟蜜を詰め、口にも蜜を含

んで、巢へ持つて来て、さうして其骨折の報いに殺されてしまふやうに。

生中集めた財寶が、最期の父親にさういふ苦さを味はせる。

ウオーリック又出る。

え、何處にをる、伴は？ もう直に、おれの身方の病魔の手でおれは息を引

取つてしまふのに、それをすらも待つてゐない彼れは？

ウオー 王子はお次の室にお在でございましたが、全くの御孝心から、如何にも深

ウオー

え、何處にをる、伴は？ もう直に、おれの身方の病魔の手でおれは息を引

取つてしまふのに、それをすらも待つてゐない彼れは？

く御哀傷遊ばして、御落涙なされてでございました。血の外は飲んだことのない暴虐とても、あの御様子を見ましたら、其匕首を憐愍の滴りで洗つたらうと存じます程でございます。只今お出でになります。

王世子又出る。

王 あ、あそこへ来た。……ハリー、こゝへおいでなさい。……みんな退つてくれ。わたしらだけにして。

ウオーリック其他一同入る。

王子 (うやくしく跪いて) お言葉を二度と承はれるとは思ひませんでした。さう思つたのは、ハリー、さうあつて欲しいと望んだからであらう。え、長く生き過ぎたので、待ち疲れたな。王の椅子が早く空けばよいと、お前は待ちかねてをるのか、まだ其機は来ないのに、わしの榮譽や尊嚴を身

に着けてしまはうとするのは？ お、馬鹿な奴だ！ 押潰されるのも知らないで、國王になりたがるのか？ ま、少し、待つてゐろ。わしの此威嚴の雲は、もう直雨となつて落ちるのだが、やつと微風に支へられてをるのだ、もう殆ど暗くなつてをる。お前の盗んで行つたものは、もう二三時間も経てば、そんなことをせずともお前の有になるのに、死際に、あゝ豫期してゐた通りだ、とお前はおれに思ひ知らせた。おれを愛してゐないのは、今までの行ひで分つてはゐたものゝ、いよくそれが確實に分つた。お前は、胸の中で、内々短剣を百も千も研ぎすましてゐて、もうたつた半時間此息の根を絶つたのだ。えいッ！ たつた半時間が待たれんのか？ ちや、自分で往つておれの墓穴を掘つて、陽氣に鐘を鳴らさせるが可い、お前の即位を知らせる爲に、おれの死んだ知らせではなく。おれの柩に灑ぐべき涙をば、それをば悉く香油の滴りにして、お前の即位用にするが可

い。おれの死骸は、お前を生んだ此死骸なんかは塵埃と一しよにして、只もう蛆蟲にくれッちまへ。おれの任じた役人は皆な罷ッちまへ、おれの出した勅令は皆な廢しッちまへ。秩序を馬鹿にする時が来たんだ。ハリー五世のお即位だ！ これからは虚榮の世の中だ！ 王者の威嚴なんかは如何でもいゝ！ 賢明な顧問官なんかは追拂ッちまへ！ さうして此英國の朝廷へは、各地方から碌でなしの馬鹿者ども許り集つて來い！ 隣國よ、汝らの國の劣等者を皆な吐き出してよこせ！ 汝らのところに誓言したり、暴飲したり、踊り狂つたり、夜通し騒いだり、其他、強盜だの、虐殺だのといふ開闢以來の罪惡を最新の方法で行ふやうな惡黨がをるなら、喜べ、もう其奴らは汝らの厄介にはなるまい。英國が其奴らの其二重、三重の罪惡をも歡んで迎へるだらうから、官爵や權力をさへも與へるだらうから。なぜならば、第五世ヘンリーは、放逸無慚といふ狂ひ犬の鎖を切つて

口籠を脱して、勝手に人に咬附かせることにしたのだから。お、我哀れな、内亂で病み疲れた王國よ！ おれがこれほど心を勞しても汝の亂脈を鎮めることが出來なかつたとすると、亂脈其者が王となつた時分には如何なるであらう？ お、汝は再び狼の住む原始通りの荒地となつてしまふであらう！

と次第に激昂して病ひを忘れて、怒りつ歎きつして罵り、果は泣倒れる。

王子

(此間始終俯伏して泣いてゐたが、やつと顔を擧げて) お、父上、御免なさい！ 涙が如是に出て、物を言ふ邪魔をしなければ、そんな深い、大きい、切ないお歎きのお叱りを、然う長々とおつしやらないうちに、お止めするのでしたけれど。……王冠はそこに在ります。(天を仰いで)無限に王冠を戴きたまふ御方よ(と改めてうやくしく跪いて)長永に父上の有とそれを護らせたまへ！

若しもわたくしが假にも其れを、あなたの御榮譽の標章としての意味以外で愛するやうでしたら、此恭順の姿勢から起上らせないで下さい、斯う平伏しました外形はわたくしの心中の至誠至恭の精神が指圖してさせてゐるのでございます。神よ、願はくは保證者とならせられて下さい、わたくしが先刻こゝへ来て（と父に向ひて）陛下の息が絶えてしまつてゐるのを知つた時には、此心臓は氷のやうになりました！これが若し偽りなら、お、現在の此放逸な行ひのまゝで死んでしまつて、豫定してたやうに、立派に豹變して、世上の誤解を根本から解くなんて事は、逆も出来ないやうにして下さい！父上、わたくしは先刻お見舞に來まして、どう見ても御逝去としか思はれなかつたものでしたから、其王冠に向つて、生きてる物に言ふやうに、非難をしました。「汝に屬する心勞が我父の命を縮めたのだ。だから汝は最善の黄金でありながら、最悪の黄金である。十八金程度の

王

でも薬水となれば人命を救ふから、汝よりも貴い。お、最上等品であつて、最も人に尊重される汝は、其持主の命を奪つた」と。さう罵つて、わたくしはそれを頭に載せて見たのでした、目の前で父を殺した其者に對して、實子が敵討をする心持になつて。決してそれを嬉しく思つたのでも、誇りの念なんかを感じたのでもなく、又少しでもそれが齎す實權を歓迎する所の逆心や虚榮心を持つてゐたのではありません。若し少しでもそんな心があつたのでしたら、神よ、願はくは長永に王冠を此の頭上から遠ざけて下さい、さうしてわたくしを、最上等の臣民が畏れ怖れてするやうに、其前に拜跪かせて下さい！

お、伴……神がお前をして王冠を持つて行かしめられたのであらう、さういふ賢明な分疏をさせて、却つてます……父に愛させるやうになさるために！ハーリー、こゝへ來い。（王子起ち上ると、王は王子を抱擁する）。此床の

脇へ掛けな。…多分これはおれの口にする最後の教訓だらうと思ふから
 聽いてくれ。(王子王の脇へ腰を掛ける) 伴、神は御存じのことだが、おれが此
 王冠を得るまでには、いろいろ横路へも入り、曲つた間道をも通つた。で
 これを被つてゐた間の苦勞心配といふものはなかつた。お前の世となれ
 ば、もつと安穩にもなり、氣受けもよくなり、其位置が鞏固にもならう、そ
 れを獲れた時の汚れはおれと一しよに土に收つてしまふから。おれのと
 しては、それが暴力で奪つた榮譽のやうに見えた、又現に俺達が助けたか
 ら獲つたのだと罵りわめく奴等が多勢ゐた。それらの怖るべき不逞の徒
 は、お前も知つてる通り、おれが悉く壓倒した。おれの一代は逆臣膺懲と
 いふ同じ筋書ばかり演じつゝけてゐた劇であつた。が、おれが死んで見
 れば、模様が變るわけだ。おれには買収品であつたのが、お前にはもつと
 正常な物になつて手に入る。お前は正しい遺産として王冠を譲り受ける

のだ。だが、お前はおれよりもずつと堅固な地盤に立つのだとは言ひ條、
 まだ十分安心は出来ない、といふのは種々の生々しい不平が残つてをるか
 らだ。それから俺の親友の者共は、それをお前が皆な親友にせにやなら
 んのだが、彼等は、つい最近に、其牙や蝨針を抜かれたばかりだ。おれは
 最初は彼等の烈しい働きで、立身したのだが、又彼等の爲に何時廢位され
 るか分らんといふ恐れを抱いてゐた。で、それを避けるために、彼等の或
 者をば切除き、さうして又多くの者をば聖地へひきゐて行かうと思つてゐ
 た、じつと手を束ねさせておくと、おれの權限しらべなぞを始めさうだか
 ら。だから、ハーリーよ、狂躁な奴らは外征に従事させて、心に暇のない
 やうにするが可い、本國を離れて働いてをるうちに、紛れて、過去を忘れさ
 せるやうに。まだ言ひたいところがあるが、息が切れて、此以上をいふ氣力が
 ない。…此王冠を手に入れた手續をば、神よ、赦させられませ、どうかお

王子

前の代には、これが平穩に保存されますよう！
父上さま……あなたは、これをお手に入れて、お戴りになつて、保存なすつて、さうしてわたくしに下さいました以上、これは明かにわたくしの正當の所有物でなければなりません。わたくしは世界中を敵としても、非常な努力を盡して、必ず之を保持するでございませう。

王子ランカスターのジョン出る。

王

ジョン

あれ、あそこへ、ランカスターのジョンが来た。

王

ジョン

父王陛下の御健康と御平穩と御幸福とを祈りまする！（と跪く）

王子

ジョンよ、幸福と平穩とはお前が持つて来てくれたが、健康だけは、若い翼をはたかかせて、此萎びた裸幹から飛んでいつてしまつた。お前の顔を見たので、おれの此世の務は果てた。ウォーリックは何處にをる？
ウォーリックの伯爵！（と呼ぶ）

ウォーリック其他出る。

王

わしが最初悶絶したあの室には、何か特に名が附いてゐたかな？

ウォー

ジェルサレムの室と呼んでをりまする。

王

神徳を讃へ奉れ！ あそこを終焉の室としよう。ずつと以前にわしは

ジェルサレムでない以上死な、いと豫言されてゐた、それを愚かにも聖地のこと、ばかり思つてゐた。……あの室へ伴れていつてくれ。あそこで臥る。あのジェルサレムでハリーは死ぬのだ。

皆々入る。

* * * * *

第五幕

第一場 グロースターシャー シャロウの宅

シャロウ、フォールスタッフ、バードルフ及び侍童出る。

シャロ 　とんでもない、今夜お立ちといふことはない。……おい、デーギー、おい！
 フォル 　どうか、お免しを願ひたいねえ、ロバート・シャロウさん。
 シャロ 　いゝえ、免されませんねえ。免すわけにや参りませんよ。免すなんてこ
 とはいけません。免すべきでないです。決して免されませんよ。……お

い、どうしたんだ、デーギー？

家令デーギー出る。

デー 　へい〜。

シャロ 　デーギー〜〜〜、かうつと、デーギー。（と言つたが、急に用事が思ひ出さ
 れぬ。かうつと〜。あゝ、さうだ、料理番のウィリヤム、あいつに來いて
 つてくれ。……士爵ジョン、免すわけにやいきませんよ。

デー 　え、實は、斯様でございます。何分にも仰せのやうには参りません
 ので。それから又、小麦はあの、端畑へ蒔きますのでございますか？

シャロ 　うん、赤小麦をな。だがの、料理番のウィリヤムを。……鳩の雛はないの
 か？

デー 　いえ、ございます。……これが鍛冶屋の書出しでございます、靴の直し代と
 犁頭の代でございます。

シヤロ 勘定して拂つてやれ。……士爵ジョン、免すわけには参りませんよ。

デー それから、もし、釣瓶の鎖が一箇是非入用でございませう。……それから、ウィリヤムのお給金は、幾らかお引去りになりますのでございませうか、ヒンクリーの祭市で、彼れが先日損をいたしましたあの酒代一件で？

シヤロ ありや彼れの責任だ。……デーギー、鳩を何疋かと脚の短い牝鶏二羽と羊肉の大きい奴一片と何かその一寸うまさうな混淆羹のやうなものと、料理番のウィリヤムにさう言つとけ。

デー 軍人さんがたは終夜お逗留でござ



シヤロ うん、さうだ。(と聲をひそめて) 優待しとかうよ。 朝廷に友人が一人あるの

いますか？

デー は財布に一片があるよりも申しだからな。デーギー(と立離れて歩き廻つてゐるフォールスタッフを見つて) あの仁の家來たちをも優待しろ。あいつらは名代の悪黨だから、仇をされんやうにしとかなけりやいかん。

シヤロ うまいことをいふわい。は、は、は、は……さ、急いで。 どうか、旦那さま、あのウォンコットのウィリヤム・ギゾアをお助けなすつて

シヤロ 下さいまし、敵手方は丘のクレメント・パークスでございませう、へい。 あのギゾアを告訴した者は他にも多勢あるぞ。あいつは名代の悪黨だ、

デー 成程、悪黨には相違ございませぬ、へい。で、ございませぬが、悪黨でございませぬも、その親友が願ひしますれば、幾らかお慈悲が願へさうなもの

でございませす、へい。正直者は、旦那さま、随分その、自身で辯護すること
も出来ませすですが、悪者はそれが出来ません。手前は、お邸には、もう
その八年御奉公いたしてをりますが、四季に一度か二度は、定つて悪を正
直者から救つてやりますでございませす、で無ければ、奉公效がないとおつ
しやられても致し方がございません。あの悪は、手前の一等正直な友達
でございませす、へい。でございませすから、旦那様、どうぞお助けなすつて。
よし。非に落ちんやうにしてやるよ。……さ、急いで。……(デーギー入る)。
士爵ジョン、何處へおいでなすつた？……さ、さ、さ、長靴をお脱ぎなさい。
……や、バードルフさん、さ、お手を。

シヤロ

バード

いや、どうも有りがたう、バードルフさん。……(侍童を見て)や、ようお出で、
大男さん。……さ、さ、こちらへ、士爵ジョン。

シヤロ

フォル

有りがたう、すぐお後から行きます。……

シヤロウ入る。

バードルフ、こちとらの馬を始末しとけ。……

バードルフと侍童と入る。

(シヤロウの後影を見送りながら、北叟笑をして)おれをめちや〜に細く立割つたな
ら、あのシヤロウどんよろしくいふ隠者握りの杖が、忽ち五十本ぐらゐ出
来るだらう。奴と奴の奉公人共とは、する事、なす事が全く一致してゐるか
ら不思議だ。奴らは奴を見真似に間拔の判事らしい舉動をする、奴はま
た奴らと交際つてゐるから、奉公人めいた判事になツちまふ。雙方の氣質
が全く絡み合つて一しよくたになツちまふ、あの雁て馬鹿鳥と同じに、始
終雷同ばかりしてやがるからだ。若しかあのシヤロウに何ぞ頼みたいこ
とがありや、奴の家來共の機嫌を取ることだ、「足下たちほど御主人に信用

されてる家來衆はないよ」なぞと煽てゝ。又、あの家來共に用があつたら、主人のシャロウを嬉しがらせるに限る、「あんたほど自由に家來を使役し得る人はない」と言つて。聰敏さうな舉動も、馬鹿げた様子も、わるい病氣と同じに、やッぱり傳染する。だから、友達達は選ばんけりやならん。あのシャロウめをうんと材料にして、ヘンリー王子を、流行が六たび變る程の間、笑ひつゞけさせてやらう。といふと、四期、二詔に當る。で、大將、取りも直さず無間斷的に笑ふことになるといふもんだ。あゝ、誓言附きで嘘を言つたり、眞面目くさつて戲言を言つたりすりや若い手合は大騒ぎだ、肩痛の経験なんか夢にも知らねえやうな若い手合は！ 面を、まるで、濡たまゝで引束ねといった外套で鹽梅に皺くちやにして、馬鹿笑ひをすらすア！

シャロ

(奥にて)士爵ジョン！

フォル

はいく。今行きます。

入る。

第二場 ウェストミンスター王宮。

ウォーリックと裁判長ガスコインとが行逢ふ。

ウォー

これは、裁判長どの！ どちらへ！

裁

王の御容體はいかゞでございますか？

ウォー

おめでたくあらせられます。御心勞は悉く終つたと申すものです。

裁

よもや、御逝去ちやありますまいね？

ウォー

自然の常道をお通過になりましたのです。吾々からいへば御他界です。

裁

あゝ陛下は手前をお召しつれ下さればよかつたに！ 御在世中に忠勤



を勵んでおいたゞけに未來の
報罰が思ひやられます。
成程、新王は貴下に對して好意
を有つてはをられませんな。
それは心得てゐます、で豫想以
上の如何な怖しい事態が迫つ
て参りませうとも、それを甘ん
じて迎へるだけの覺悟をして
をります。

王子ランカスターのジヨ
ン、同クラレンス、同グロ
スター、及びウエストモ

アランド其他出る。

ウオー あそこへ故ハリー王の子息達が愁傷の體で見えられました。あゝ、あ
の王世子ハリーどのが、せめてあの三王子中の最劣等の方の氣質でも有
つてをられたならばなア！ さうであれば、幾多の貴族が其位置を保つこ
とを得たであらうに、あゝ恐らく、彼等は卑劣な根性を起さないわけには
行くまい！

裁 あゝ！ あゝ！ 何もかも亂脈となるであります！

ジョン お早う、ウォリック君、お早う。

クラレ お早う。

ジョン お互ひに、話をすることを忘れつちまつた人間のやうだねえ。

ウオー 覚えてはゐます、けれども、話題が話題ですから、繰返すに忍びないのです。

ジョン さア、(と言ひかけて天を仰いで) あゝ、願はくは、神よ、其語るに忍びない君の御

許に平和あらせたまへ！

裁 吾々の身にも、願はくは平和あらせたまへ、更に悲みの加はらざらんために！

クロー

お、裁判長どの、なるほど貴下こそ大切な親友をお亡くしになつたわけですわね！ 貴下は、全く心底から、歎いてお在であらうと信じます、借物の泣顔ではないと信じます。

ジョン

勿論、だれが如何いふ恩寵を受けるやら分らないのですが、とにかく貴下は一等冷酷な待遇をお受けなさりさうです。實にお氣の毒です。さうでなければ好いが。

クラレ

ねえ、あの士爵ジョン・フォールスタッフに取入つてお置きなさるのが必要ですよ、彼れは貴下とは全く相容れない男ではあるけれど。

裁

王子がた、手前は、正義上、爲すべきことだけをしたのでした、無私公平の

ウオー

此良心の命令に従つてしたのでした。卑劣な手段を講じて、免さるまじきを免されやうなぞとは思ひません。正直と潔白とだけでは通らんとすれば、手前は、お亡くなりになつた故王のお許へ参りまして、云々の仔細で参つたと申し上げます。

(二方を見て) あそこへ王世子がお出でになつた。

新たに即位してヘンリー五世王となつた前の王世子ハリー

一多勢の臣下を従へて出る。

裁

(敬禮して) 御機嫌よろしう！ 神よ、陛下を御守護あらせたまへ！

新王

仕立下しの此華美な王の服は、足下たちが想像してゐるやうに、着心が好いものではない。弟たち、お前たちは愁傷の中に多少の恐怖を混へてゐるやうだが、こゝは英國の朝廷だよ、土耳其ぢやアない。アムーラットがアムーラットを相續するのぢやアない、ハリーがハリーの嗣になる

のだ。だが、ま、澤山歎くが好い、なせなら、歎くのは王子たるお前たちの身には善く似合つて、如何にも立派に見えるからだ。わたしもまた其同じ式通りに、悲みの深い襷を此胸の中へ畳み込まうとしてゐるからである。だから、たんとお歎きなさい、けれどもそれは、わたしもまた足下たちと同等に負擔すべき筈である。わたしは、こゝで誓つて、お前たちの兄ともなり、父ともなる積りです、只友愛の情を持たせてさへくれ、ば、お前たちの心配や苦勞はわたしに荷ひませう。亡くなつたハリー王をたんとお歎きなさい、わたしも共に歎きませう。併し其涙をば一滴々々喜びに替へようと力めてゐるハリー王の生きてゐることを忘れなざるな。ひとへに陛下に信頼してをりまする。

王子ら
新王

お前たちは皆な妙な顔をしてわたしを見てゐる。……殊に、其方は。(と裁判長に) お前は、わたしはお前を愛してゐないと信じてゐるだらうな。

裁

正當に御判断下さいましたならば、手前は陛下のお憎しみを蒙る筈はないと心得まする。

新王

筈はない? ……行くく國王ともなるべき身分の者が、お前がおれに被らせたやうなあんな大屈辱を受けて、それを何とも思はんでをられると思ふか? えり? 叱り附けて、罵倒して、英國の王世子ともある者を監獄へ暴力を以て引立てさせる? それが平氣で看過されることか? 物忘れ河なぞで一洗し去られることだと思ふか?

裁

手前は、あの際は、御父上の御名代でございましたから、手前の一身には國王の御大權が寓つてをりましたのです。で、國家の爲に、御父上に成代つて正邪曲直を取捌きをりました際に、殿下が手前の身分を、正義公道の裁判役たる身分を、國王の御名代たる職柄をお忘れ遊ばして、場所もあらうに裁判所に於て、手前を御打擲なさいましたので、職務上、もはや躊躇いた

すわけに参りませず、御父上に對する御不埒として、處分いたしましたのでございませぬ。若しそれを不法だと思し召しますなら、王冠を戴かせられまする今日、假に王子が在らせられて、陛下の御命令を蔑ろにし、陛下の裁判官を裁判廷に於て凌辱し、國法の執行を妨げ、陛下の御安泰を警護し奉る爲の正義の劍刃を鈍らする御所行があつたからとて、いや、たとひ如何に陛下の御名代を、御分身を足蹴になされたり、辱めたり遊ばしたからとて、それをお咎めになることは出来ませぬ。御自身のお心に問はせられて、今假に王子が在らせられて、其王子が國家の大法を蔑ろにし、陛下の御尊嚴を凌辱遊ばしたと思し召せ、而うして手前が陛下に成代りまして、職權によつて、靜に王子に御戒告を申し上げた、と斯様に御冷靜に御想像遊ばしました上にて、如何やうにも手前を御宣告下さいませ。王たるの御資格を以て、何卒公平に、手前が、王の御名代たるの職分上、不都合で

新王

ございませぬ。條々を仰せ聞けられたう存じます。裁判長、お前のいふことは道理だ。當然だ。だから、此後とも、權衡と劍と(裁判微罰)を擔任して下さい。さうしてお前の名譽がいよゝますく加はつて、わたしの俸がわたしがしたやうに、お前に對して無禮を働いて、さうして柔順にお前の宣告を奉ずるのを見るまで生延びて貰ひたいものだ。わたしもまた其時まで生きてゐて、父が言つた通りの事を言ひたい。「あゝ、予の實子に對してすら正義を行ふのを恐れぬ剛毅な裁判官を有してゐる予は幸福だ。又、正義の前には世子たるの權利をも抛つのを辭さない俸を有してゐるのも亦それに劣らない幸福だ」と。お前が予を監獄へ送つた其報いに、予は、今改めて、多年お前が持慣れてゐる其穢れのな劍を、お前へ贈物にする。(と言ひつゝ、劍を渡して)どうか此劍を、お前が嘗て予に對してした通り、大膽に、公正に、依怙最良なしに使用してくれられ

るやうにと戒告して。……さ、握手しよう。どうか齡の行かん子の父ともなつてくれ。お前の賢明な、老巧な指圖に随つて命令をも發し、去就をも決しよう。……家弟たち、わたしの言ふことを信じて下さい。父上は、——わたしの從來の狂人根性をお墓の中へ合葬したいから、——今頃は嘸持刺してお在だらうが、其父上の嚴肅なお氣質を譲り受けて、向後わたしは外見ばかりで批判をしてわたしの將來をいろくくと悪評してゐる奴等を鼻明してやらうと思ふ。わたしの血は、今日までは、自惚の爲に、とんだ方へばかり流動してゐたのだが、それが退潮となつた將來は、全く方向を一變して、國家の大波濤と進退を一にして、常に規則正しく堂々と流れることになるだらう。さ、我國をして古今の最善のそれと同列たらしめる準備として、先づ國會を召集しよう、さうして吾々の股肱耳目たるべき賢明な顧問共を選ばせよう。それから戦争も、平和も、いや、其二つを同時に

取扱ふ事にも、熟通するやうにならねばならん。……それらの事にも（と裁判長に）お父さん、眞先にお前さんに骨を折つて貰はんけりやならんよ。……即位式が濟むと、今言つた通り、國會を召集するであらう。神が予の善良な意志を御嘉納あらせられる以上、よもや王族なり、貴族なりが、假にも神に向つて、此ハリーリーの幸福なる生活を、只の一日でも短めたまへなぞと祈らうとは思ふまい！

入る。

第三場 グロースターシャー シャロウの果樹園。

フォールスタップ、シャロウ、サイレンス、デーギー、バードルフ及び侍童出る。

シヤロ

いや、是非手前の果樹園を御一覽願ひたいですよ、さうして四阿で、手前が

手づから接木しましたビ、ン
 林檎の昨年の初生りてのを食
 つて見ていたゞきたいですよ、
 葛縷子其他をも一二品添へま
 すからね。…さ、サイレンス、
 足下もね。…さうして、それ
 から、その、お就褥がよろしい。
 (四方を見廻して) こりや、實に、非
 常に立派なお住居ですなア。

フォル

シヤロ

なアに、ぼろッけ、ぼろッけ。
 まるで乞食でござす、乞食世帯
 でござす。只その、何でござ



す、空気が好いだけでござす。…デーギー、布を敷いて、布を。(デーギー食
 卓を整理する)。おつと、よし〜。

フォル

お給仕役でもあれば御家令

シヤロ

さんでもあるといふわけですなア。
 は、全く忠僕でござす、全く忠僕でござす。…おや、つい、夕食に、ち
 と酒をやり過ぎましたわい!…全く忠僕でござす。…さア、お掛け下
 さい、さ、お掛け下さい。さ、(とサイレンスに) 足下もね。

一同食卓に着く。

サイレ

(大ぶ上機嫌で) あいよ、心得たといひをる。(歌ふ)。

只もう食うて、食うて

愉快な今年を

神のお庇とお感謝申しな。

肉類は廉いが、女子は貴い。

若い衆や浮かれて、あちこち徘徊、

日がな一日を、愉快にぶら〜。

フォル

(酒盃を挙げながら) 面白い人だ！……サイレンスさん、今に、其お禮に、貴下の健康を祝しますよ。

シヤロ

デーギー、バードルフさんに葡萄酒をあげなさい。

デー

(バードルフに) ねえ、貴下さん、お掛けなさいまし。今にお相手になりますから。ま、どうぞお掛けなさいまして。お侍童さん、ねえ、もし、お侍童さん、お掛けなさい。へい、ようこそ。食物の不足はお酒で償ひます。どうぞ御勘辨なさいまして、眞情が肝腎でございますからね。

シヤロ

バードルフさん、愉快にやつて下さい。……それから、その小さいお武士さん、愉快にやつて下さいよ。

サイレ

(歌ふ)。

愉快に、愉快に、やつたり〜。

宅では縛めが頭を抑へる。

脊高も脊低も女は悍馬、

髭面ばかりが一しよに集り、

懺悔期祭は愉快の極だに、

やつたり〜、愉快に、愉快に！

フォル

サイレンスさんが斯ういふ氣象の人だとは思はなかつたねえ。

サイレ

たれですか、え、わたし？ 稀には斯ういふともあるんで。は〜は〜！

デーギー又出る。

デー

(バードルフに) へい、柔革林檎でございます。これは貴下さんへ。

シヤロ

デーギー！

デー へい〜！…(バードルフに)直に参りますよ。…(サイレンスに)蒲萄酒を一
盃さしあげますかね？

サイレ (歌ふ)。

素敵な上等の蒲萄酒一盃、

おらがお敵に飲んでやつて下さい。

愉快に氣を持ちや、命が長い！

フォル よう〜！ よう〜！

サイレ 愉快にやらうてには、今が夜中の第一等て時刻ですよ。

フォル サイレンスさん、貴下の健康と長壽を祝しますよ。

サイレ (歌ふ)。

酒盃になみ〜湛へてお廻し、

底まで一里あると、飲みますべいによ。

シヤロ

バードルフさん、よう来て下さつたねえ。ねえ、欲しいものがありや言ひッ
こ〜。それを言はんやうだと、足下は實に不實者だよ。…(侍童に)お
い、大將、小ちやい盜賊さん、ようお出でたねえ、ほんまにようおいでたね。
…我輩は先づバードルフ君のために飲む、それからロンドンの壯士諸君
全體のために飲むよ。

デー

(バードルフに) はい、生きてるうちに、いつか一度は行つて見たいと思つて
ますよ、ロンドンへ、はい。

バード

若しかロンドンで貴下に逢へばねえ、デーギーさん、…

シヤロ

きつとその五合壘で以て飲みつくらと来るだらう！ え、さうでせう、バ
ードルフさん？

バード

さやう、一升壘でやりませア。

シヤロ

いや、どうも有りがたう。…奴ア、大丈夫、足下に畔かないよ。はぐらか

しやアしないよ。素姓のいゝ男だからね。

バード わッしだつてはぐらかしやアしねえや。

シヤロ よう。倫言汗の如しかね。さ、存分にやつて下さいよ、愉快に。……

(内にて叩く音) だれか戸口へ来たやうだぜ。……おうい！ だれだ叩くのは？

デーギー入る。

フォル (サイレンスが大盃を飲干すのを見て) それで先づ御返禮が済んだてもんだ。

サレレ (歌ふ)。

返禮してくれ、

勳士爵にしてくれ、

サーミンゴー！

斯うでしたね？

フォル さうです。

サイレ ですか？ ちや、老人もまだ幾らか頼もしうごわすね。はゝはゝ！

デーギー又出る。

デー (フォールスタッフに) 閣下へ申し上げますが、ピストルといふ方が、何か朝廷からのお知らせを持つて来たつて、ござらつしやりました。

フォル 朝廷から！ 呼入れて下さい。……

ピストル出る。

ピストル どうした？

ピスト (敬禮して) 士爵ジョン、御機嫌よろしう！

フォル ピストル、どういふ風に吹かれてやつて来たんだ？

ピスト だれの爲にもならねえ悪い風なんか吹かれて来たんちやありませんぜ。

士爵さん、お前さんは、英國中の一等大きな人間の仲間入をしたんだぜ。

サイレ 大丈夫さうだらうね、パーソンの、あのブッフ爺さんだけを取除けりやアね。

ビスト (大きに腹を立てて) プッフだ! プッフたア 此方でいふこツた、爰な卑怯未練な腰抜け爺めが、うぬ!... (と大見得を切つておいて、呆れるサイレンスには關はずフォールスタッフに) 士爵ジョン、我輩は足下のビストルであると同時に莫逆でもあるんだ、だから、暗雲に汗馬を突走らせて、すなはち此吉報を、此幸福なる通告を、此黄金的報道を齎して來たんだぜ、

フォル おい、頼む、もつと平凡な、俗な、人間らしい言葉で報告してくれ。

ビスト 平凡だの、俗だのていふ卑屈なものは七里結芥だ! おれは亞弗利加的の事や黄金的の報道を話さうてんだ。

フォル おい、卑な亞西利亞のお武士さん、足下の報告てのは何だい? さ、有體に、コフィーチュア王陛下に言上してくれ。

サイレ (歌ふ)。

ロビンフッドとスカールレットとジョン小頭と。...

ビスト (サイレンスを覗んで) 埃溜漁りの野良犬なんかの分際でヘリコンに對抗しよ

うてのか? 折角の吉報告を滅茶々にしツちまはうてのか? ぢや、ビストル、お前は其頭を怨靈神の前垂の中へ埋ツちまへ!

サイレ (ビストルに) 貴下さん、わしは曾ぞ、貴下にヤお目にかゝたこともないのに。

ビスト 然らんには、いよゝく以て惘然至極だ。

シヤロ (ビストルに敬禮をして) え、失禮でござすが、... 若しもその、貴下が朝廷から何等かの御報告をお持ちせでござすなら、其解決法は、要するに、只二様あるのみでござせう。... 直ちにそれを御發表なさるか、或は御隱蔽なさるか? 手前は王陛下から或職權をお預り申してをる者でござす。

ビスト 王陛下とは何處の王陛下だ、此田夫野人が? さ、言ふか? 死ぬか?

シヤロ ハーリー王陛下でござす。

ビスト ハーリーは四世か? 五世か?

シヤロ ハーリー四世王でござす。

ピスト ヘッ、そんな職權が何になる！……士爵ジョン、お前の可愛がつてた仔羊が王さんになつたよ。ハーリー五世てのがそれだ。眞實のこつた。若しピストルが嘘を吐いたら、(入指ゆびと中指との間へ母指を挿んだ拳を突出しながら)斯うしてくれ、無花果を見せてくれ、あの喧嘩好きの西班牙人のやうに。

フォル え、ちや、老王さんは死んだのか？

ピスト うん、扉の釘よろしくだ。今言つた事は皆な事實だ。

フォル バードルフ、さ、あッちへ！ 早く馬に鞍ア置いてくれ。……ロバート・シャ

ロウさん、何でも關はん、好きな職にお就きなさい、おれが受合ふから。……ピストル、今に夥多官職を装填してやる、待つてろ。

バード ありがてい！……勳爵士ぐらゐちや俺ア満足しねえぞウ！

ピスト どうだね！ 大上等の報告だらう？

フォル

サイレンスさんを寝かしなさいよ。……シャロウさん、ねえ、シャロウ閣下：何でも好きなやうになさいよ。おれは好運の女神の家令も同然だから。

：長靴をお穿きよ。すぐに馬で夜通しやつて行くんだ。……お、ピス

トル、御苦勞だつた……バードルフ、早く……(バードルフ入る)。おい、

ピストル、もつと後を話してくれ、さうして汝の出世の段取も考へとけ。……

：おい、シャロウさん、長靴々々。若い王さんめ、おれを待焦れてるだらう。

だれのも關はんから、馬を持つて來な。英國の法律はおれの勝手次第

だ。おれの友達は皆な幸福だが、氣の毒なのはあの裁判長だ！

ピスト

奴の肺の臓なんかは熊鷹に食はしてくれ！ 以前のおれは何處にゐるッて言やがらア。へい、こゝにお在なさるとおつしやる。さア、これからア愉快だぞ！

皆々浮かれ立つて入る。

第四場 ロンドン 街上

教區の風俗係りの吏員甲、乙、丙、青色の制服で、女主クイックリーとドール・チャシートとを引立てつゝ出る。

女主

いゝえ、お前さんはおツそろしい悪黨です。わたし此まゝ死んじまひたい、お前を解死人にして絞罪にしたいから。肩の蝶番が脱れツちまつたぢやないかね？ あゝ痛い！

甲吏

彼女ア（とドールへ思入して）警保官から引渡しになつたんだ。今に十分管のお振舞にありつくんだ。彼女の關係で以て、つい近頃、殺された者が一人か二人もあるんだ。

ドール

羅卒め、嘘を吐け。おい、若し今おれが孕んでるのが流産になるやうだと、



女主

牛の胃腑面野郎め、汝は自分のお袋をぶんなぐつたはうがまだしものことになるぞよ、紙ツ面野郎め！

甲吏

あゝ、かういふ時に、ジョンさんが来てくれるといゝのに！ あの人が居りや、どいつだか血みどろになるやうな目に逢ふんだらうのに。だが、神さま、どうぞドールさんのお肚の子を流産にして下さいまし！ さうだと又座蒲團が十二枚も要るぞ、今は十一枚しかないのだが。さ、さ、一しよに歩びな。あの男が死んじまつたんだからな、汝とピストルとで撲り附けたあの男は。

ドール

おい、香爐の蓋に附着してる薄ッぺらの人形野郎、おれの言ふことをよく
記えときな、今に此報いで汝等はみつちり笞を食ふんだから……此青蠅野
郎の、食ふや食はずの掃溜羅卒め、おのしらのやうな奴らが撲られないや
うなら、もうおれは女下袴なんか縁切にしッちまはア。

甲吏

さ、さ、女武者さん、さ、さ、おいで〜。

女主

お、神さま！ 正義が暴力に勝ッちまふんだからしやうがないわねえ！

ドール

……だけど、難澁から安樂が生れるといふから。

女主

さ、悪黨、さ、早くおれを裁判官の許へ伴れてけ。

ドール

さ、伴れてきな、飢がりの獵犬野郎。

女主

やい、骸骨、やい、骨！

ドール

しやり骨！

おい、瘦ッぽち。おい、瘦鹿。

甲吏

よし〜。

二人を引立て、入る。

第五場 ウェストミンスター院附近の公街。

二人の僕、葎を地上に蒔きつゝ出る。葎は、室内、室外とも、當
時は敷物の代りに使用したのである。

第一僕

もつと葎を、もつと〜。

第二僕

喇叭が二度聞えたぜ。

第一

御即位式が済まないうちに二時になッちまふだらうぜ。急いで〜。

二人とも入る。

フォールスタッフ、シャロウ、ピストル、バードルフ及び侍童出る。

フォル ロバート・シャロウ君、おれの傍にゐたまへ。
 王に挨拶をさせるから。傍へ来た時分に、
 おれが目くばせをする、と大將どんな風にお
 れを待遇するか、見てゐたまへ。

ピスト 神よ、士爵さんの肺の臓を祝福したまへ！

フォル おい、ピストル、こゝへ来い。おれの背後に
 立つてろ。……あゝ、新しい制服を仕立てさ
 せる暇があつたなら、足下に借りたあの千圓
 をそれに使ふんだつたに。が、かまつたこ
 とアない。この見すばらしい奴の方がいゝ
 や。王に逢ひたさに、急いでやつて来たて
 證據になるから。



シャロ いかにも。

フォル 如何なに友情が切だかてことが證據立てられるからね。

シャロ いかにも。

フォル おれの熱誠が證……

シャロ いかにも、いかにも、いかにも。

フォル 夜を日に繼いでやつて来たてことがね。躊躇したり、廻想したり、服を着
 替へたりしてゐねえで……

シャロ 全く。その點が最も妙でござす。

フォル 汚れたまゝの旅行服で、只もう逢ひたさに、汗を流して、何もかも忘れて、
 放擲ツといつて、やつて来たらしく見えるからね。

ピスト すなはち、要するに、一にして二ならずです。所謂不即不離でさ、全が各
 部に存在してゐるんです。

シヤロ

いかにも、全く。

ピスト

ねえ、士爵さん、貴下の肝臓に炎症を發させて、憤激させることがありますぜ。……あんたのあの、ヘレン姫ともいッつべきドール嬢は、今や監禁の身となつて、あはれ傳染的の牢獄内に呻吟してますぜ。けちな、下等な奴らに拘引いて行かれたんでさ。……宜しく速かにアレクトーの毒蛇の棲む最闇黒の洞の中から復讐神を叩き起し來つて、彼嬢を救ふべきですよ。此ビストルのいふことア金輪際事實ですぜ。

フオル

うん、(大やうにうなづいて)。救はう。

奥にて多勢の歡呼の聲、盛んな喇叭の聲。

ピスト

(又見得を切つて)やア、轟き渡る怒濤の響、鳴り轟ける喇叭の聲々!

と劇白のやうに言ふ。

王と其従列と出る。裁判長も従ふ。

フオル

(大得意で出迎へて)いよう!

萬歳!

ハルさん!

ハル王さん、萬歳!

ピスト

萬歳!

萬歳!

すッばらしい、いたづら王子さんの偉物ウ!

フオル

萬歳! ハルちゃん!

王

(裁判長に)裁判長、あの馬鹿者を制して下さい。

裁

(フオルスタッフらに)こらく、お前がたは氣が狂つたのではないか?

てゐることが分つてるか?

言つ

フオル

(王に)王さん!

大將!

おい、

足下、

足下に物を言つてるんだよ!

王

(フオルスタッフに)老人、汝は何者だか知らんが、祈禱をせい、祈禱をせい。

白髪で阿呆や封間の役を勤めるのは似合はん。予は、大ぶ久しい間、恰ど汝のやうな肚の怖しく脹れた、汚はしい或老人を夢に見てゐたが、目が覺めて見ると、それを思ひ出すのさへも否だ。以後は體の量をもつと減して、徳をもつと殖すやうにしる。大食ひを止める。で無いと、墓穴が汝

を迎へるために、他人に對する時よりも三倍の大きさに口を開けて俟つだらうぞ。予に對して又と馬鹿口を叩くな。予は舊の予ではないぞ。神は夙に御存じのことだが、予は世人をして予の豹變を認知せしめると同時に、予を友としてゐた徒輩にもそれを覺らせようと思ふのだ。予の行ひが舊の通りだと聞いたら、やつて來い、舊の通り汝を帥匠にして亂暴を働かうよ。それまでは、汝に十哩以外の追放を命ずる、他の舊惡友共一同と共に。若し誤つて予の身近くへ參ると命が無いぞ。資財がないと、止むを得ず惡事を働くでもあらうから、食ふには困らんやうにしてやる。改悛の實が見えれば、器量に應じて、それ／＼登用の道をも開いてやる。……裁判長、これは卿さんの責任として、只今申し渡した通りを實行して下さい。……(從列を顧みて)進め。

王及び從列一同入る。

フォールスタッフらは呆れ、驚き、失望する。

フォール

(憤げて) シャロウさん、あなたにヤ一千ポンド借りてたねえ。

シャロ

(同じく萎れて) いかにも。どうかあれだけは、持つて歸られるやうにして下さい。

フォール

シャロウさん、そいつアむづかしいよ。が、ま心配なさんな、多分今に、内密で呼びによこす積りだらうから。つまり、何だ、世間體、まア、あゝしなけりやならねえのだ。大丈夫、あなたアおれが出世させるよ。なアに、おれが附いてる以上、何かしてあなたを大きくするよ。

シャロ

だつて、あなたの其下衣を我輩に被せて、さうして藁か何か填込むより外にヤ、大きくする仕方はなささうだ。……ねえ、士爵ジョン、どうか、あの一千ポンドの半分だけでもいゝから返して下さい。

フォール

大丈夫、約束は違へやしないよ。王があゝ言つたのは、體裁だよ、跋を合

はせたまでよさ。

シヤロ い、や、體裁ではなく、制裁らしいから、罰が怖うぞわす。

フォール なアに、撥なら太鼓に中らア。さ、さ、一しよに食事しよう。……(ピストルに)

こら、中尉。……こら、バードルフ。……(シヤロウに) なアに、きつと今夜中に呼びに来まさ。

王子ジョン裁判長を伴ひて又出る。役人ら従ふ。

裁 (役人に) 士爵ジョン・フォールスタッフをフリート(監獄所)へ引立てろ。同類の者も一しよに。

役人らフォールスタッフ主従を取巻く。

フォール (驚いて) 閣下、閣下……

裁 今は答へるわけにはいかん。後に聞かう。……引立てろ。

ピスト (見得を切つて) われ薄運なりと雖も、未來の希望無きにしもあらずッ！

ジョンと裁判官とを残して皆入る。

ジョン 王の此處分は頗る氣に入つた。以前お傍去らずであつた奴らに十分の手

當を與へて、改悛の實が擧るまでは、國外に追放なさらうてのは、全く當然の御處分ですね。

裁 さやうでございます、はい。

ジョン 國會も召集になりましたね。

裁 はい。

ジョン 本年中に、きつと、今まで内亂の鎮定に使つてゐた劍や勇氣を、佛蘭西まで持出すことになるでせうよ。鳥がそんな風に囀つてゐましたが、その妙音樂が、どうやら王の氣に入つたらしかつた。……さ、行きませう？

二人とも入る。

* * * * *

閉場詞

舞踊手述ぶ。

先づ、心配を致し、次にお辭儀を致しまして、最後に口上を述べます。心配は御機嫌に適つたかどうかといふのでございます。お辭儀は手前の本務で、口上は失禮のお詫びに外ならぬのでございます。若しも巧妙な口上を述べるのだと御期待になるやうでは大變でございます。今日の口上は手細工でございますから、不細工千萬だらうと存じます。ですが、ま、ともかくも申し上げて見ます。さて、とうに御承知とは存じますが、手前は先だつて、不出來の演劇の終演に、お詫びのため、こゝへ罷り出まして、此次には必ず上等なものを御覧に入れます、とお約束をいたしましたのでございますから、本日もまたお氣に召しませんやうでございますと、手

前は身代限りでございます、随つて債主たる諸君に於かせられても、御損毛といふことに相成ります。が、お約束ゆるス様に罷り出まして、お慈悲の御處分を願ひます。何分かを御免除下さいますれば、多少のお支拂を仕りました上で、世上一般の慣例通り、行くくは必ずといふ御契約を無數にいたします。若し舌で願ひましただけでは御宥免にならんとございませすれば、脚を使ひまして拙い踊を御覧に入れても宜しうございますが、お借り申しておいて蹶散らすなんてのは、あまり失禮でもございませうか？ 併しながら、良心が健全でございませ以上、出来るだけのお償ひは致します。御婦人がたは、もう既にお宥し下さいましたのですから、殿方だけが敢て御異議とございましたは、そこどころが、それ、どうもその、前例のございませんと、如何はしうございます。尚一言申し添へます。脂肪澤山の肉にまだお饜果遊ばしたわけござい

ませんなら、作者は、もう少し伯爵ジョンの話を続けまして、佛の王女カサ
 リン姫に關する面白い筋を御覽に入れたいと申してをります。佛國へ参
 りまして、フォールスタッフは大汗の爲に命を失ひますさうで、尤も御評判
 次第で、其以前にも絶命致すでございませうが。現にオールドカッスルは
 忠死致しました、此れと彼れとは全く別人でございませうから。
 大ぶ舌が疲れました。此上は、脚の疲れますのを界に、「お休み遊ばせ」を
 申し上げます。さうして跪坐いて、諸君に御挨拶をいたします。が、其
 實は、女王陛下のお爲に、お祈りをするのでございませう。

ヘンリー四世 第二部 完

大正八年十月五日印刷
 大正八年十月八日發行
 大正九年四月二十日再版發行

(不許複製)

正金價五拾錢

譯者 東京市牛込區余丁町百十四番地 坪内雄藏

發行者 東京市小石川區音羽町四丁目十一番地 荒川信賢

印刷者 東京市牛込區榎町七番地 渡邊八太郎



發行所

東京市牛込區早稲田

早稲田大學出版部

(振替口座東京二二三三番)

←(日清印刷株式會社印刷)→

文藝博士坪内逍遙譯

シェイクスピア傑作集

(第三編)

オセロ

(六版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 正價壹圓八拾錢 郵税金十錢

沙翁の作三十六篇、其中特に家庭悲劇と稱すべきは此一作あるのみ。而して其脚色、事件、人物の極めて自然にして近代的なる其最大傑作中にも比類あるを見ず。譯者また特に此點に心を注ぎ、用ひて、譯筆に別様の工夫を凝らし、多く現代語調を加味して譯出したれば流麗にして明暢、殆んど一の創作を讀むが如し。而も一字一語をだに荷もせず、一々語を逐うて譯したれば、鬚髯原著に接すると一般。若し沙翁を研究せんとする者、之を参考の用に供せんか、簡明靈活、之に優るの好註釋書はあるべからず。

シェイクスピア傑作集

(第四編)

リヤエ

(四版) 三色版口繪入 木版密畫多數入 正價壹圓八拾錢 郵税金十錢

親子間の道徳に對する沙翁の見解は如何。其の暗示を與ふるは此作也。外國には孝を寫せる傑作なし。狂公爵は盲してリヤエの乞食と零落するの脚色既に雄大の眞狂と戯れ多し。狂公爵は狂公爵にして老翁を從まにするの落想眞天來の餘年其傑作中の傑作とせし作は多く日本趣味を帶べり。相會して狂態を露にするの落想眞天來の餘年其傑作中の傑作とせし作は多く日本趣味を帶べり。安貼を欲して早稲田講堂に一新沙翁の劇を講ずる趣然其至微なだも洩す所なし。一讀何人と雖沙翁に親炙するを得ん。

文藝博士坪内逍遙譯

シェイクスピア傑作集

(第五編)

ジュリアスシーザー

(六版) 寫眞版口繪入 木版密畫多數入 正價壹圓八拾錢 郵税金十錢

沙翁の傑作中政治的興味を中心とせる者は、是れ。千古の英雄シーザーが末路の史實を材として波瀾重疊の男性的悲劇を織成せる者は是れ。我國に於ては卅年前、該撤奇譚の上梓以來、廣く世に知られたり。逍遙博士今や其譯筆を新にして之を純然たる現代語に譯して文藝協會公演の臺本として帝國劇場に上せて非常の喝采を博したり。劇中に於けるブルータス、アントニーの演説は一段の興感を以て玩讀せらる可き也。

シェイクスピア傑作集

(第六編)

ユニスの商人

(四版) 寫眞版口繪入 木版密畫多數入 正價壹圓八拾錢 郵税金十錢

劇を口にする者にして沙翁を説かざるはなく沙翁を説く者にして人肉抵當裁判廷の場を知らざるは知らず。猶太人シヤイロツク、而も其原作の完譯は未だあらす。少くとも其口に繪入たる生徒も之を知らざるを恥辱とす。其原案の皮膜を縫ふ沙翁の快活なる悲劇の底調、其輕妙なる滑稽趣味、其幽婉なる骨髄を以て幾百年前の荒巧なる虚實の皮膜を縫ふ沙翁の快活なる悲劇の創作と一般なる現代語譯は本質を以て幾百年前の荒巧なる虚實の皮膜を縫ふ沙翁の快活なる悲劇の躍りたる肉塊と現じて今尙鮮かに生命を有す。沙翁喜劇の特質を最も善く代表せる傑作物。

發行所 東京早稲田 早稻田大學出版部

發行所 東京早稲田 早稻田大學出版部

文藝博士坪内逍遙譯

シェークスピア
傑作集
(第七編)

テムペスト

(四版)
寫眞版口繪入
木版密書多數入
正價壹圓八拾錢
郵税金十錢

大沙翁が最晩年の傑作にして其絶筆と信ぜられたる夢幻詩劇！是れ喜劇？仙話？樂劇？象徴劇？作者が自傳の概要？彼の四大悲劇などとは全く其調を殊にせり。如是絶類の作を意味せずして大沙翁の大沙翁たる所以を知るべからず。本篇には譯者特に讀者の爲に六十餘頁の長論文を添へて其解讀の枝折とせり。

シェークスピア
傑作集
(第八編)

アントニオとクレオパトラ

(四版)
三色版口繪入
木版密書多數入
正價壹圓八拾錢
郵税金十錢

沙翁が偉大なるは其作の獨り出で、傑特に、作意の變化して窮らざるに存す。此作は彼れが爛熟期最後の傑作、巧に世界的悲劇の契機を捉へて「全世界に君たらんか熾烈なる肉の戀愛を全うせんか」して大テレンマに達着せる英雄的放蕩兒が功名の末路を活寫し、所謂四大悲劇以外に一新機軸を出し、諸評家をして沙翁作中の最大驚異と推賞せしめたるもの。殊に妖女王が性格の描寫は眞に驚異中の驚異、古今空絶。次に全篇に漲れる漢楚軍談風の男性的政治的興味は在來諸悲劇の未だ移植し得ざりし所。

發行所 早稻田大學出版部

文藝博士坪内逍遙譯

シェークスピア
傑作集
(第九編)

眞夏の夜は夢

(參版)
三色版口繪入
木版密書多數入
正價壹圓八拾錢
郵税金十錢

大沙翁が多方面なる天才の、空想側面の代表作として眞に醉乎として醉なる者、其姉妹編「テムペスト」に比して更に愉快、更に奇抜、更に微妙、更に飄逸、五幕十幾場、其三分の二は悉く幻、想も幻、其調も幻、妖魔類に跳梁して恣に人間を翻弄す、人妖錯綜し、極めて自然に、理窟を全脱して條理却て整然、艶情あり、滑稽あり、莫藤あり、悲喜あり、忽ち喜劇、忽ち笑劇、忽ち歌劇、絶對無類の脚色、「オセロー」「マクベス」の作者にして此作ありとは!!!

シェークスピア
傑作集
(第十編)

マクベス

(五版)
三色版口繪入
木版密書多數入
正價壹圓八拾錢
郵税金十錢

ドストイェフスキの「罪と罰」の規模を更に雄大にし更に劇化せる如き名篇にして或は「ムレット」以上、「オセロー」以上、「リヤ王」以上と稱せらる、沙翁の傑作。以上拾編、何れも傑作中の傑作。
本編の附録として譯者の添へたる「日本に於ける沙翁研究、翻譯竊案及び上演の略誌」は研究の沿革を尋ね、著譯書に就ては其年順書名、著譯者名、發行所名を明にし、其上演に就ては其年月、外題、譯者、俳優、劇場を詳にせるを以て、沙翁研究者の必讀を要す。

發行所 早稻田大學出版部

イブセン傑作集

四六判布製函入
每冊口繪數葉入
全六冊
正價各壹圓卅錢
郵稅各十錢

—(成 完(卷六)部 全)—

1 島村抱月譯	人形の家	4 坪内士行譯	小さいアイヨルフ
2 島村抱月譯	海の夫人	5 坪内士行譯	野
3 坪内士行譯	ロスマルスホルム	6 坪内士行譯	ヘツダ・カプラー

北歐ノルエーの僻地に生れ社會劇の大作を出して歐米の思想界を震撼したのはイブセンである。婦人の自覺、婦人の解放、婦人の獨立を題材とした「人形の家」が本譯書に依て屢々我が劇壇に演ぜられて女大學主義の守舊家を戦慄させた事は誰も知つてゐる。彼の作は何れも傑作ならぬは無いが茲に譯出した六作は傑作中の傑作である。而して譯者は我劇壇文壇に隠れもない島村抱月、坪内士行の兩氏及び島村民藏氏であるから其譯筆の如何は言ふに及ばぬ。

發行所

東京牛込 早稻田 早稻田大學出版部

終

